

# 多摩川（六郷土手）から羽田へ

2012 年 10 月

## 多摩川

六郷土手駅⇒六郷の渡し跡 ⇒止め天神 ⇒ 六郷大橋  
⇒六郷緑地 ⇒六郷水門 ⇒大師橋緑地⇒羽田神社  
⇒羽田の渡し跡 ⇒羽田の水門・赤レンガの堤防

## 羽田界限

かもめ稲荷神社 ⇒玉川弁財天水神社⇒五十間鼻 ⇒弁天橋  
⇒羽田の大鳥居⇒ 白魚稲荷神社 ⇒ 穴守稲荷神社  
・ 穴守稲荷駅から羽田空港に移動（電車）

## 羽田空港

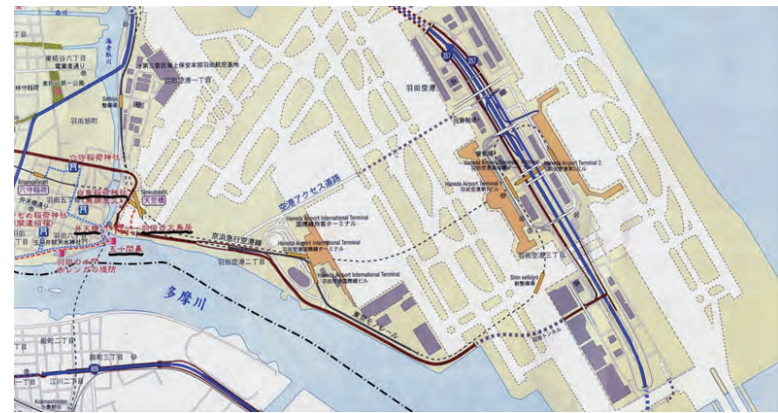
国際線ターミナル： 江戸小路、展望デッキ

第 2 ターミナル展望デッキ

飛行機の離着陸、東京湾、お台場、スカイツリーなどが眺められる



六郷土手駅から羽田へ



羽田、羽田国際空港ターミナル



羽田界限の散策ルート

- (1) 権助橋の跡  
(東蔵谷 3-4-7 地先)
- (2) 自性院 (本羽田 3-9-10)
- (3) 羽田神社  
(本羽田 3-9 -12)
- (4) 正蔵院 (本羽田 3-10-8)
- (5) レンガ造りの堤防  
(羽田 2.3.6 丁目の多摩川沿岸)
- (6) 羽田の渡し跡  
(羽田 2-32 付近)
- (7) 鷗稲荷神社  
(羽田 6-20-11)
- (8) 玉川弁財天・水神社  
(羽田 6-13-8)
- (9) 鈴木新田跡  
(羽田空港 1.2 町目の一部)
- (10) 白魚稲荷神社  
(羽田 5-27-8)
- (11) 穴守稲荷神社  
(羽田 5-27-8)
- (12) 子安八幡神社  
(北粕谷 1-22-10)

## 六郷川河口の旧漁村集落

羽田は六郷川（多摩川の下流）の河口の三角州先端に形成された漁村集落であった。昭和に入って沖合が埋め立てられ羽田空港（東京国際空港）が建設された。羽田の町は関東大震災で被害を受けたが戦災は逃れ、昔からの漁村の風情を残している。

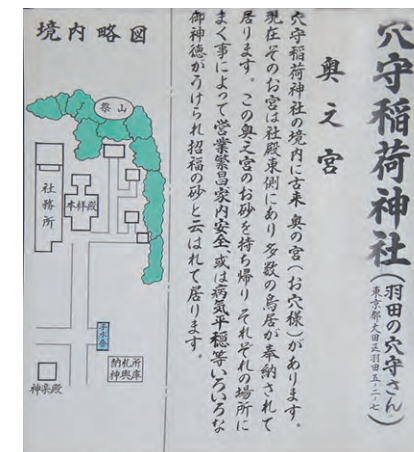


六郷川に沿って土手（堤防）がめぐらされているが、河岸線から一筋入った通りに煉瓦塀が続いている。昔の防潮堤であり、かつてはここまでが海岸線であった。

かつて羽田の町は羽田空港がある敷地内にも広がっていた。しかし敗戦後の昭和 20 年 9 月 21 日、羽田空港を接收した連合国軍は空港の拡張のため住民に 48 時間以内の強制立ち退きを命じ、現在の空港敷地内にあった羽田の 3 つの町の 1320 世帯、2894 人は強制的に追われた。

## 穴守稲荷

江戸末期に水害など水の被害から町を守るために穴守稲荷が祀られている。現在、穴守稲荷は京急の穴守稲荷前駅近くにあるが、かつては羽田空港の敷地内にあり、明治になってからは多くの人々の信仰を集めて羽田は門前町としても栄えた。「穴」にかこつけた賭け事や色事といった俗な御利益でも支持されていたようである。参道も料亭や旅館で華やいでいた。



道には鳥居がありその先に本殿がある。本殿の右奥には小さな鳥居が重なった先に奥の宮がある。奥の宮の砂を持ち帰って撒くといろいろとご利益があるそうだ。戦後、穴守稲荷は米軍による強制退去で現在地に引っ越した。大鳥居だけは残されたが、その後、滑走路の進入経路上にあたるということで、現在の天空橋近くに移転した。

ロマンある名をもつ天空橋。空港モノレールや京急空港線の駅名になっているが、橋自体は鉄道橋を思わせる地味なガーター人道橋である。1993 年に京急の羽田駅が開業の折に、地域住民の利便性を考えて海老取川に架けられた。



水死者の供養塔



玉川弁才天



天空橋を多摩川の河口の方に行くと水死者の  
供養塔がある。

海流などの影響でこのあたりに遺体が漂着  
することが多かったことで建てられた。

多摩川の堤防沿いを少し歩くと

玉川弁才天がある。この弁才天も終戦直後に  
進駐軍から強制退去を受け弁天橋南西に  
移転した。江戸時代から多摩川の  
守護神として江戸の回船問屋などから信仰を  
あつめていた。

堤防に沿ってさらに行くと羽田の渡し碑が  
ある。

羽田漁師町（大田区）と上殿町（川崎）の  
間には古くから渡しがあった。

かつて、この渡しを利用して農水産物など生活に必要な品々が羽田と川崎の間を  
行き交った。江戸の末にはまた穴守稲荷と川崎大師参詣を参拝する人々もこの  
羽田の渡しを利用し、川遊びをする舟も往来した。こうした物資の交流、  
人々の生活に役割を果たした渡しは、昭和 14 年に大師橋が開通したことで  
廃止された。大師橋の一つ上流には六郷橋があるが、ここには六郷の渡しが  
あった。

戦前の羽田は、遠浅の干潟を生かした海水浴場が有名だった。

穴守駅から徒歩約 300 メートルのあたりに、海の家や海水プールなどの  
施設があった。



広重「はねたのわたし弁天の社」

## 羽田の漁業

羽田浦は、魚貝類の栄養源となる淡水が多摩川から流れてくることで  
すぐれた漁場であった。

とくに干潟の魚介類は羽田の特産であり、江戸に運ばれた。

しかし、昭和 30 年代からは埋め立てが進み海も汚れたことで

漁業が難しくなり、昭和 37 年には海苔漁場の漁業権が放棄された。

その後、空港拡張により浅瀬漁場は減少し漁村としての姿は薄れた。

わずかに多摩川河口の栈橋と船が面影を残している。

## 羽田空港

羽田空港国際線ターミナルは今ではテーマパーク化し、

旅行者だけでなく娯楽や食事、また展望を楽しむために多くの人が  
訪れている。



江戸小路



第一旅客ターミナル 展望デッキ